

## 第2章 都市づくりの理念と基本方針

### 1 都市づくりの理念と目標

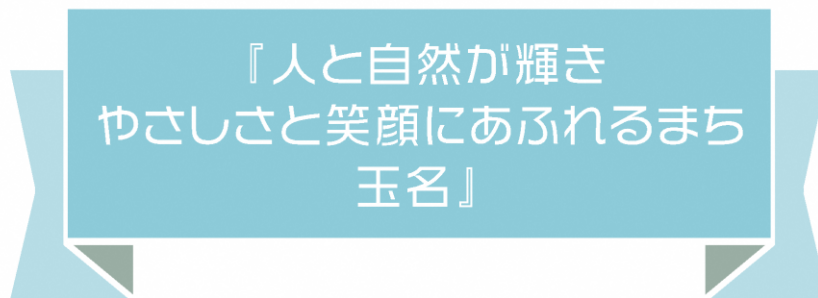
#### 1.1 都市づくりの理念

本市は、小岱山及び金峰山系の山々や、市域のほぼ中央を流れる菊池川、有明海、そこに生息する多様な生態系など、豊かな自然環境に恵まれています。そのような豊かな自然環境を舞台にして、今後、本市に暮らす全ての人々が輝けるように、第2次玉名市総合計画に即し、持続可能な都市づくりを進めます。

#### 1.2 都市づくりの目標

本市では、本市に暮らす全ての人々が、豊かな自然を舞台にますます輝ける環境づくりを進めるために、都市計画による土地利用の規制誘導や、道路や公園などの都市施設の整備だけでなく、産業育成や観光振興、公共交通、防災、空家等の対策、景観など、様々な周辺分野と連携して取り組みます。

また、第2次玉名市総合計画の将来像(都市像)を、本計画の推進によって具体化していくといった関係性から、本計画における都市づくりの目標は、第2次玉名市総合計画で定められた将来像(都市像)とします。



#### 将来像(都市像)を達成するための3つのキーワード

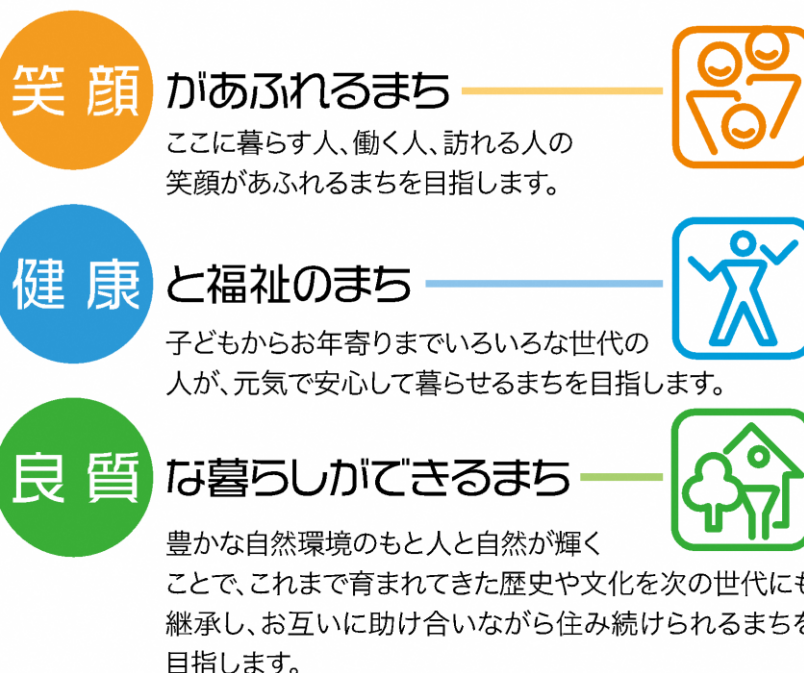


図 第2次玉名市総合計画における将来像(都市像)

## 2 基本方針

都市づくりの目標を基に、都市計画マスタープランで取り組む基本方針を定めます。

基本方針1	各拠点の形成やネットワークの確保による持続可能な都市づくり		
特に関連するSDGsの目標	<b>3</b> すべての人に健康と福祉を 	<b>11</b> 住み続けられるまちづくりを 	<b>17</b> パートナーシップで目標を達成しよう 

今後も人口減少が続くことに伴い、都市機能の高いエリアへの人口集積による機能維持・向上を進めていくことが重要です。また、中心拠点、地域拠点、交通拠点、観光拠点、交流拠点などのそれぞれの拠点の持つ性格や役割を明確にし、各拠点の形成に向けた取組を進めていくことが重要です。さらに、拠点間を結ぶネットワークの確保も重要です。そのような考えから、各拠点の形成やネットワークの確保に向けた取組を通じ、市全体が一体となり、持続可能な都市づくりを推進します。

各拠点の形成に向けた取組の推進	都市機能利便性の高いエリアへの人口集積や、土地の有効利用の推進、ウォーカブルなまちづくり等を通じて、拠点性の向上に努めます。
ネットワークの確保	交通インフラ*の整備等を通じ、市街地とそれぞれの拠点や、拠点間を結ぶネットワークの確保に努めます。

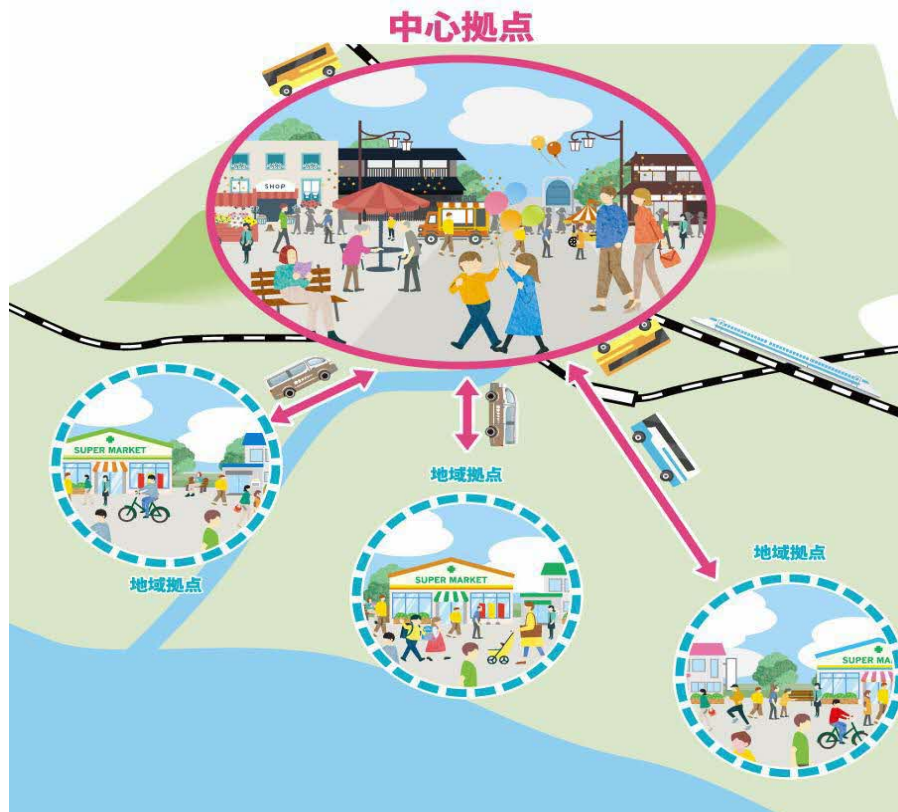


図 ウォーカブルな(居心地が良く歩きたくなる)まちのイメージ

基本方針2	計画的な都市施設等の維持管理、防災強化等による安全で、暮らしやすい都市づくり
特に関連するSDGsの目標	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> </div> </div>

住み続けられる都市の実現を支える基本的な事項として、安全・安心で、暮らしやすい都市づくりが、全ての市民生活の基本であるとともに、最重要課題であると考えます。そのような考えから、計画的な都市施設等の維持管理、公共交通の利便性向上、防災対策の強化、遊休地等の有効活用などを通じて、暮らしやすい都市づくりを推進します。

計画的な都市施設等の維持管理	長寿命化をベースとした公園・緑地の整備、水道・下水道設備等の計画的なメンテナンスや日常管理の実施、幹線道路や生活道路の整備等を通じて、住みやすい地域の実現に努めます。
公共交通の利便性向上	市内全域で高齢化率が上昇していくことを見据え、市民の生活の足を確保するために、公共交通の利便性向上に向けた取組の推進に努めます。
防災対策の強化	治水・治山などの防災対策強化、避難所・避難路の整備、防災情報の周知体制の強化等、防災対策の強化・推進に努めます。
遊休地等の有効活用	遊休地、空き家・空き地などの未利用地においては、土地の有効活用を図ります。



写真 空き家の活用(みんなの縁側王丸屋)

<b>基本方針3</b>	<b>地域資源を活用した産業の育成や雇用の創出、観光振興の基盤となる都市づくり</b>		
<b>特に関連するSDGsの目標</b>			

持続可能な都市づくりの実現には、農林水産業の振興や、地産地消の推進、事業承継、共通価値創造による事業育成、企業誘致等による雇用の創出や、観光振興による賑わいづくりを図っていくことが重要です。そのような考えから、地域資源を活用した産業の育成や雇用の創出、既存の観光施設を有効活用する等の観光振興の基盤となる都市づくりを推進します。

<b>地域産業を活用した産業の育成や雇用の創出</b>	農林水産業の振興や、地産地消の推進、工業団地等の整備による新たな企業立地の推進等を通じ、産業の育成や、雇用の創出につながる都市づくりに努めます。
<b>観光振興</b>	時代のトレンドや社会情勢の変化等を踏まえた、既存の観光施設の有効活用や活性化を通じ、観光施設の利用者数の増加につながる都市づくりに努めます。

<b>基本方針4</b>	<b>自然と共存した都市づくり</b>		
<b>特に関連するSDGsの目標</b>			

本市は、有明海、菊池川、小岱山、金峰山系の山々、そこに生息する多様な生態系などの豊かな自然環境に恵まれ、それらは住む人々により育まれてきました。今後も、地域に誇りを持ち、自然への思いやりを大切にし、豊かな自然環境をしっかりと後世に受け継いでいくことが重要です。そのような考えから、引き続き、自然と共存した都市づくりを推進します。

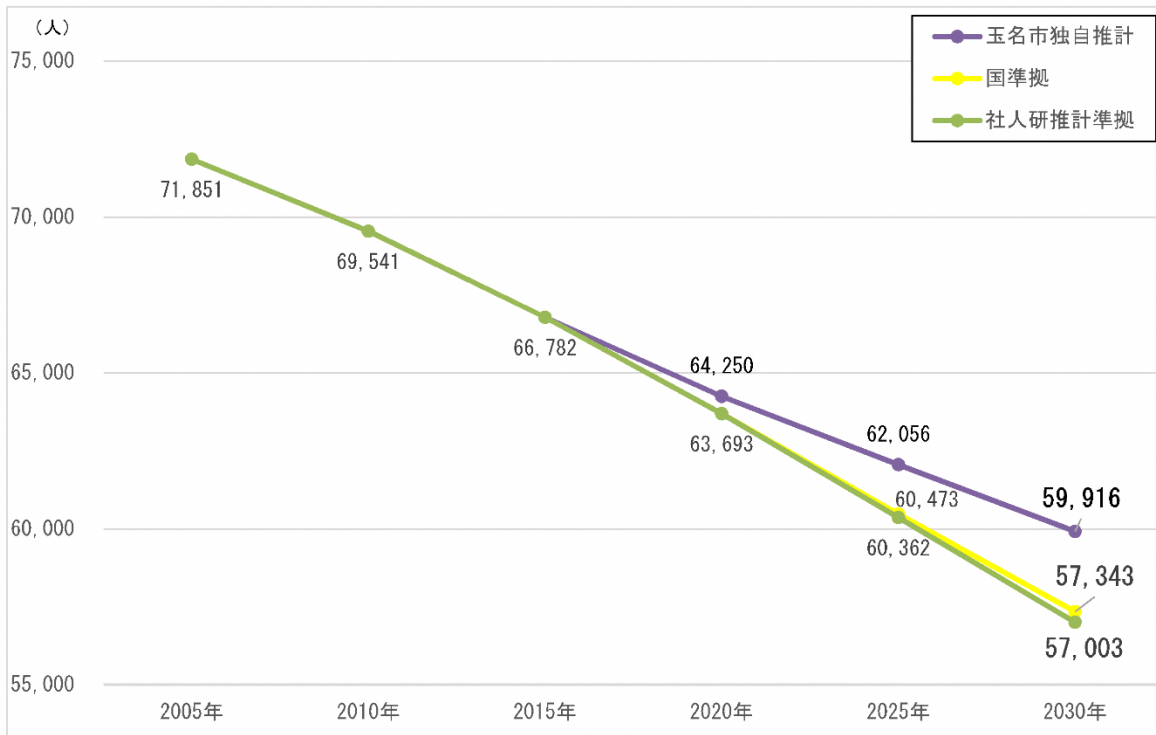
<b>豊かな自然環境の保全</b>	小岱山、金峰山系の山々、菊池川、有明海などの豊かな自然環境の保全に努めます。
-------------------	--

### 3 人口の将来展望

玉名市人口ビジョン(令和2年3月)における「玉名市人口の目標」を踏まえ、2030年に人口規模60,000人を将来展望人口と設定します。

この人口目標の達成のために、本市における「まちの創生」、「ひとの創生」、「しごとの創生」を関係機関と連携し、一体的に取り組み、持続可能な都市づくりを進めることで、移住や定住を促し、誰ひとり取り残さない地域社会の実現を目指します。

玉名市独自の人口推計、国の長期ビジョンに準拠した玉名市人口推計、社人研による玉名市人口推計  
(2015年までは国勢調査実績値)



2030年における社人研推計人口57,003人と玉名市の独自推計人口59,916人には約3,000人の差があり、国の長期ビジョンに準拠した推計人口57,343人とは約2,600人、また、熊本県のビジョンに基づく推計60,541人(グラフ未掲載)とは625人の差となっている。今後各種施策の取り組みの強化や外国人の増加傾向を踏まえ目標を次のとおり設定する。

玉名市人口の目標

2030年に人口規模60,000人の維持

[出典:玉名市人口ビジョン(令和2年3月)]